（禁無断転載）

範囲指定なし　第７問　問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 保有している新潟物産㈱の株式について、株式配当金領収証￥140,000 を受け取った。
2. 決算にあたり、当期に 500 株、1 株あたり￥1,200 で購入した子会社株式の期末時価を調べたところ、1 株あたり￥1,050 であった。
3. 三重商事㈱は、電子記録債権のうち￥200,000 を銀行で割り引き、割引料￥4,000 が差し引かれ、残額が当座預金口座に振り込まれた。
4. 売掛金￥170,000 が貸倒れになった。なお、貸倒引当金の残高は￥130,000 であった。
5. 島根商事㈱は、仕入先である岡山産業㈱より商品を￥350,000 で購入し、代金は掛としていたが、この商品が品違いだったため返品した。
6. 山形商事㈱は、茨城建設㈱に営業所用の建物の新築工事を請け負わせ、請負金額の一部である￥3,000,000 を小切手を振り出して支払った。
7. 福井商事㈱は、新たに事務所を賃貸することになり、保証金￥1,000,000、不動産会社への手数料￥500,000、1 か月分の家賃￥500,000 を現金で支払った。
8. 北海道商事㈱は、決算にあたり当期首に取得したソフトウェアについて、定額法により償却した。このソフトウエアの取得原価は￥1,500,000 であり、利用可能期間は 5 年と見積もられている。
9. 3 月 1 日、1 か月前の 2 月 1 日の輸入取引によって生じた外貨建ての買掛金 30,000 ドル（決算日は 3 月 31 日）について、1 ドル￥110 で 30,000 ドルを購入する為替予約を取引銀行と契約し、振当処理を行うこととした。為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。なお、輸入取引が行われた 2 月 1 日の為替相場（直物為替相場）は 1 ドル￥105 であり、また本日（3 月 1 日）の為替相場（直物為替相場）は 1 ドル￥106 である。
10. 親会社は子会社に対して、以前より仕入金額に 20%の利益を付加して商品を販売しており、子会社は親会社より仕入れた商品を外部に販売している。当期末に子会社が保有する商品のうち、親会社から仕入れた金額は￥720,000 である。連結上必要な未実現利益を消去する仕訳を行いなさい。

Copyright © 簿記の教室メイプル

（禁無断転載）

範囲指定なし　第７問　模範解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	140,000	受取配当金	140,000
2	仕訳なし			
3	当座預金 電子記録債権売却損	196,000 4,000	電子記録債権	200,000
4	貸倒引当金 貸倒損失	130,000 40,000	売掛金	170,000
5	買掛金	350,000	仕入	350,000
6	建設仮勘定	3,000,000	当座預金	3,000,000
7	差入保証金 支払手数料 支払家賃	1,000,000 500,000 500,000	現金	2,000,000
8	ソフトウェア償却	300,000	ソフトウェア	300,000
9	為替差損益	150,000	買掛金	150,000
10	売上原価	120,000	商品	120,000

【解説】

8.　￥1,500,000÷5 年＝￥300,000

9.　（￥110－￥105）×30,000 ドル＝￥150,000

10.　￥720,000÷120％×20％＝￥120,000

Copyright © 簿記の教室メイプル